

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 20 日現在

機関番号：13901

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720423

研究課題名(和文) フィリピンにおけるグローバル化と労働の人類学的研究：無職者と海外出稼ぎの事例から

研究課題名(英文) An Anthropological Study of Globalization and Labor in the Philippines: The Case of Jobless People and Overseas Workers

研究代表者

東 賢太郎 (Azuma, Kentaro)

名古屋大学・文学研究科・准教授

研究者番号：40438320

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、(a)「無職者」と(b)「海外出稼ぎ」についての実証データを個別に分析し、その相関関係からグローバル化に起因する労働と貧困の問題に対する、地縁や血縁に埋め込まれたローカルな対処の仕組みを明らかにした。グローバルな移動労働とローカルな労働問題の2つのレベルが連結した問題対処の仕組みを実証的に解明した。

本研究から、労働と貧困の問題を抱えた無職者への地縁や血縁を通じた扶助の仕組みが成立していること、その扶助には親族集団や地域共同体内の海外出稼ぎ者の送金が大きく貢献していること、将来構想としての無職者の海外出稼ぎと海外出稼ぎ者の帰郷が扶助の仕組みを強化していることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)： In this study, research results pertaining to (a) jobless people and (b) overseas workers were separately obtained. Subsequently, based on the results, the relationship between these two groups was analyzed to reveal the system embedded in local communities and kinship groups to cope with problems of labor and poverty caused by globalization. It became clear that a structure to cope with problems existed, in which two levels-global migration and the local labor problem-were closely linked.

This study revealed that (a) there is a support system in local communities and kinship groups for jobless people affected by problems with labor and poverty, (b) overseas workers contribute to the support system by sending remittances, and (c) the support system is reinforced by the relationship between jobless people's future plans to work abroad and the homecomings of overseas workers.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学

キーワード：労働 国際移動 グローバル化 文化人類学 フィリピン

## 1. 研究開始当初の背景

現在、世界のさまざまな地域において、グローバル化に起因する社会変動が生じている。東南アジア地域においては特に、アジア通貨危機にみられるように、グローバル化に起因する経済的な危機や政情不安が、失業者の増加や物価の高騰などローカルな現場における労働と貧困の問題を生み出している [Harvey 2005]

その際に、脆弱な立場・状況から受苦者となりやすいのは、いうまでもなく病者や障害者、高齢者、貧困者、失業者といった社会的弱者たちである。東南アジアの社会的弱者たちがグローバル化の渦中で、労働と貧困の問題に直面せざるを得ない状況が、いままさに生じているのである。

しかしながら、東南アジアの社会的弱者たちは、グローバル化に起因する労働と貧困の問題に対して生存のためのさまざまな対応を行ってきた。それは、これまで共同体において伝統的に継承されてきたローカルな知識と技術の活用であったり、親族集団や社会組織など従来の共同体内部における利益分配など、地縁や血縁に埋め込まれたローカルな問題対処のあり方である。

例えば、マレーシアの零細農民の事例から、地域社会の道徳的な経済活動のあり方を明らかにしたモラル・エコノミー論は、「最大効果・効率を求め合理的に活動する個人」という西欧近代的な経済観とは異なった、ローカルな知識と実践による対処を提示した一例だといえよう [Scott 1977]

本研究で調査対象とするフィリピン社会においても、同様の状況はみられる。グローバル化による政治・経済的な社会変動は、労働条件や賃金の劣悪化、高い失業率などローカルな文脈における労働と貧困の問題を生じさせている。

またフィリピン社会の労働については、とくに「無職者」と「海外出稼ぎ」の増加を突出した現象として指摘することができる。総人口の7%を超える高い失業率と、1割以上がフィリピン国外で出稼ぎ労働に従事するという2010年度国勢統計のデータからは、フィリピン国内の劣悪な労働条件とそれに伴う貧困状況に対して、国外への出稼ぎ労働が数少ない有効な対応策となっている現状が指摘できる。

Harvey, D. (2005) *A Brief History of Neoliberalism*. Oxford University Press.

Scott, J. (1977) *The Moral Economy of the Peasant: Rebellion and Subsistence in Southeast Asia*. Yale University Press.

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、現代フィリピン社会にお

ける「無職者」と「海外出稼ぎ」の相関関係についての事例から、グローバル化に起因する労働と貧困の問題に対する、ローカルな認識と実践による対処の仕組みを実証的に解明することである。

本研究では以下の2点について、具体的に明らかにする。

### (1) 無職者

フィリピンの労働問題である高い失業率、そして低賃金と劣悪な労働条件は、無職者とその潜在的な予備軍を大量に再生産している。無職者は、都市部にも農村部にも数多く存在している。また、このような無職者は低学歴者だけでなく、高学歴者にも多く見出されるのがフィリピンの特徴である。

フィリピンにおける無職者は、イスタンバイ (*istambay*) と呼ばれ、その単語は「何もしていない」と「何かを待っている」の2つの意味を併せ持つ。そして、そのような無職者たちの多くは、親族や地域共同体による扶助を受けながら日々の生活を継続している。

本研究課題では、フィリピンの首都、地方都市、地方村落における各年齢層の無職者について実証した収集を行い、無職者がどのような経緯で無職状態に至ったのか、現在どのようにして生計を成立させているのか、地縁や血縁による扶助があるのか、そして無職者の多くが希望する海外出稼ぎも含めた将来の構想について明らかにする。

### (2) 海外出稼ぎ

フィリピンは、世界でも有数の海外出稼ぎ送り出し国である。出稼ぎ先国は世界全土にわたり、中でも中東諸国、アジア地域、北米地域に集中している。出稼ぎ者の業種は、医療関係やエンジニアなどホワイトカラーから、メイド、船員、建設労働などのブルーカラーまで多岐にわたる。

OFW (Overseas Filipino Worker) と呼ばれる海外出稼ぎ者が国内に送金した金額の総額は、フィリピンのGNPの1割以上に及ぶ。出稼ぎ者は、労働によって得た収入の多くを、国内の親族集団や地域共同体に対して送金し生活の支援をしながら、同時に帰国後の自分たちの生活基盤の確保と安定に努める。また、送金による扶助の対象には多くの場合、無職者が含まれている。

本研究課題では、フィリピン国内に居住する海外出稼ぎ経験者と予備軍、またフィリピン国外の現役の海外出稼ぎ者について実証データ収集を行い、海外に出稼ぎする経緯、出稼ぎ中の生活状況、地縁や血縁を通じた経済的扶助の状況、海外出稼ぎ後の将来の生活の構想について明らかにする。

## 3. 研究の方法

本研究では、フィールドワークと文献研究の2つの方法により実証的かつ理論的な研究

を行う。

フィールドワークでは、フィリピンにおける(a)無職者と(b)海外出稼ぎに関して、前者についてはフィリピンの首都マニラ、地方都市カピス州口ハス市、地方村落カピス州イビサン町の3か所で、後者についてはフィリピン国内と海外出稼ぎ先の双方で、参与観察とインタビューによる実証データの収集、蓄積、記述を行う。

具体的な調査内容は、(a)無職者と(b)海外出稼ぎ双方についての、ライフストーリー、現在の状況、親族集団や地域共同体における社会的な関係に関する実証データ収集である。

文献研究は、主に日本国内で行う。「グローバル化」、「労働と貧困」、「国際移動」の各トピックについて、人類学と社会学の文献を中心に、政治学や経済学、哲学・現代思想など多角的な知見を取り入れながら、本研究の目的に最も有効な分析枠組みの構築を行う。また、調査対象であるフィリピンの社会・経済的状况についての報告や統計なども文献研究の対象に含める。

#### 4. 研究成果

本研究では、(a)「無職者」と(b)「海外出稼ぎ」についての実証データを個別に分析し、その相関関係から、グローバル化に起因する労働と貧困の問題に対する、地縁や血縁に埋め込まれたローカルな対処の仕組みを明らかにした。グローバルな移動労働とローカルな労働問題の2つのレベルが連結した問題対処の仕組みを実証的に解明した。

本研究から、労働と貧困の問題を抱えた無職者への地縁や血縁を通じた扶助の仕組みが成立していること、その扶助には親族集団や地域共同体内の海外出稼ぎ者の送金が大きく貢献していること、将来構想としての無職者の海外出稼ぎと海外出稼ぎ者の帰郷が扶助の仕組みを強化していることが明らかになった。

また、グローバルとローカルをつなぐ「無職者」と「海外出稼ぎ」の相関関係から、フィリピンにおいて、また世界規模で生じているグローバル化に起因する諸問題に対して、ローカルな認識と実践が問題解決への処方箋となりうるということを明らかにした。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

東賢太朗(2012)「身体・他者・共同性 宗教的フィールドにおける『変身』から」『年報人類学研究』第2号、pp.97-108、査読有

東賢太朗(2012)「アスワンを探して フィリピン社会の怪談・化け物・妖術師」、*Kyoto*

*Journal of Southeast Asia*, Issue 12: The Living and the Dead, pp.1-4、査読有

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計4件)

東賢太朗(2011)『リアリティと他者性の人類学 現代フィリピン地方都市における呪術のフィールドから』三元社、376頁

東賢太朗(2012)「呪いには虫の糞がよく効く」白川千尋・川田牧人編『呪術の人類学』人文書院、pp.149-180

東賢太朗(2014)「第3部 イントロダクション」(pp.229-238)、東賢太朗、市野澤潤平、木村周平、飯田卓編『リスクの人類学』世界思想社、pp.229-238

東賢太朗(2014)「「待ち」と「賭け」の可能性 フィリピン地方都市の無職と出稼ぎ」東賢太朗、市野澤潤平、木村周平、飯田卓編『リスクの人類学』世界思想社、pp.239-261

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

Website:

*Kyoto Journal of Southeast Asia*, Issue 12

URL(<http://kyotoreview.org/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E/%E3%82%A2%E3%82%B9%E3%83%AF%E3%83%B3%E3%82%92%E6%8E%A2%E3%81%97%E3%81%A6%E2%80%95%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%AA%E3%83%94%E3%83%B3%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E3%81%AE%E6%80%AA%E8%AB%87%E3%83%B%E5%8C%96%E3%81%91/>)

2014年5月20日閲覧

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

東 賢太郎 (Azuma Kentaro)  
名古屋大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：40438320

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：